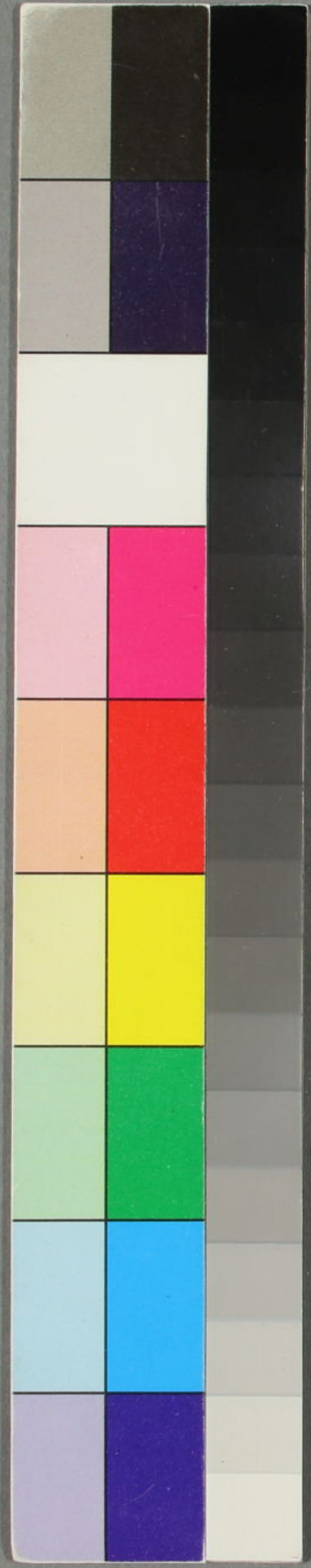


民家童蒙解

一



常盤貞尚述

氏家空室学解

京都書肆

奎星堂發兌

びるの書なり。仰べし。昔小庵。古曰乃ハその
人よあつと。流し傳へし。思ふふ。そのよく解
哉。さびみら。哉。ゆり。を實に。あよ。い。ま。い。か。ん
書。哉。得る。その。この。何ぞ。せよ。廣く。して。この。封。乃
民。多う。し。志。め。さ。ば。あ。や。む。ぬ。く。第。一。出。さ。び。て。
氏。中。奥。此。後。を。みて。し。び。る。や。予。此。こ。と。を。述。ん。が
と。先。よ。一。流。哉。加。る。の。も。于。時。享。保。二。十。年。四。月
二十一日。一。竿。舎。兆。翁。再。お。

民家童蒙解序

堯民先生の人の懇望に應じて、月比演説
せし終るるに、故自ら著す事、終田氏に
小あふふらう、白此書他にせざしむと、
足らぬに、縁あるを以て、せむる事、故私に
この書、袖裏に、よりく、燈下、に、紐と、き、る、小
さ、に、秘、し、べきに、非、也、其、要、を、る、る、人、倫、故、に、
て、理、を、明、く、の、ふ、に、皆、古、乃、聖、賢、に、後、よ、り、
後、明、く、つ、下、故、を、み、ら、び、よ、孝、材、忠、信、の、

勢を道くきとくけいハ志然んと也。他凡哉許
ざんハ先生の後退よあつてもや。平文る小あつ
る。いふとも。熟此書哉味ふるに。百件の言一
辞も亦時公善小入く人半るの乃小及。一ハの
世る依布此書のごと。名哉。凡そ又哉。紳と。
妄誕。虚无。狂言。弁説の。一。嬉口をひく。い。く。勞哉。
慰。り。小。似。り。い。い。ども。曾。小。は。あ。ん。不。徹。して。
一身哉。全。ま。る。此。あ。小。あ。つ。す。この。ハ。益。何。く。世。
て。日。を。消。の。換。あ。り。是。往。使。い。く。人。生。哉。遂。一。

民家童蒙解自叙

仁者、樂山、心之靜也。智者、樂水、心之動也。予
生涯好道、遙於山水、而不知山之靜、不知水
之動也。欲靜、則嗜欲先萌、欲動、則利名先
促。故雖於山、有句、不得其實、而實於
山水、身將於修身乎。嘗以君子之恭謹、深
耳而采口、予反之。聾而不能聽善言、雖然、不
驚。雷公之奮、後不汚、淡笑之塵埃、而獨有一
心失乎。目視經書、而心漸靜、口說善言、而動

有方矣。行齡五十八翁。私笑樂天之有嗣而才
得樂天之一指則可也。古來七十稀也。天年漸近
乎。我逝而抱焉。師我者。勸我者也。友我者。責
我者也。頻光日深之少。我逝遊不舍。晝夜
享保甲寅三月上浣一號堯民叙

民家童蒙解目錄

上之一

發語 九十八條

上之二

或向孝

起孝心

孝心厚薄

晨起

勿令親心憂

性善之辨

戒諫

克己

耻有無

大耻小耻

都鄙

下之一

郷黨和順 一ヶ條

堪忍

同胞與讎敵

太山一指

忍誹謗

親友

聰明聾瞶

口禍之門

倭奸

家業

知足

陰德

敬怠

下之二

教育 三ヶ條

婦人 五ヶ條

婚禮 三ヶ條

兄弟

朋友 一ヶ條

婢僕

摠括

目錄

民家童蒙解卷上之一

多語

丁憂不仕の隠者堯民といふ翁あり其弟あり

小恙者ありて物といふに堪むといふはあり

才学ありて善哉好む人小も勤る左郷里

推して師と稱し辞退せしむ許さずはけらに及

ひく意欲せざる取みたる如くは齡一甲

子小近き道に何程先生乃肯柄ハゆハけし

と經書ハ涉獵したる小もあり論語一節あり

堯の亦曾中文は他物れ一于時享保甲寅
誕生上旬武州八王子に至る例乃一才教禁後
しう一掌く掌上の玉や渴仰も一日羽の回そ
道人とたりて先くよく去るで叶ぬ理あり其
理を志す時はん決定して道は迷ひか一初その
外の事は後くも学び志す一各工夫を下して
其理何あらんことを知して人さほは皆く去るく
工夫して或ハ曰性ハ人乃本源かれど先性理哉知
べき哉或ハ人としてハ人のみらぞよくかへく信

一の或ハ人として先孝の道哉去るでハ一日も立ハ
以或ハ人の重なる取は生命を以て家事をま
かへき欲職と治定を以て師乃教と信ハ此は初
かいつく各一理何去りて予の心所ら此か
一孟子始く性善哉説てより性理の説宋儒一
盛なり学者があす性理は辛勞を以て一其急
速よか易くハ子貢曰夫子之言性與天道
不可得而聞也と子貢の穎悟顔子小次でも

三千小冠せんさんせうくわんなりといふ也なりといふ也。晩年ばんねん小及せうおよびて此こゝ汝にのり
 といへば友を以て見れば三千のつ人ひととらまはるる。故に
 多う下おほくに於ても等切とくおいて妨まひふしと入いり。愚
 けをんで論語を考かんめりて孔子こうしは教けへて性せいと天てん乃
 と小あつと家けはなるべし。唯名目の出ぬ乃なりなり。
 いうんとおれど其の終まつ所ところ誠まことなり明あきらなる也。是性せい
 おふや子曰いニニ子し以我われ為なる隠乎ひそかに吾無われ隠乎ひそかに爾
 是と云ふれはつ子しより脩しゆ学がくするの功こうを積たみ
 漸しぜんく悟さとりまはるるべし。中庸曰い天命之謂性てんめいのいふ性は

性せい之謂道せいのかいどう修道之謂教しゆどうのかいけう。此こゝは夫おのらあを文ぶんを
 を脩しゆめ階級かいけい昇進しやうしんして性せいを去さるべき格かく言ごんふ也。又曰い
 誠者せいじやう天之道也てんのかう。誠之者せいじやうのしやう人之道也にんのかう。此こゝは人のみら誠
 脩しゆる時ときに性せい理りを去さるべしといふも天の乃なりよ至いたるべき
 性せい接せつあるは人の乃なりを切きて誠まことあるは性せい理り天乃
 おのつら求もとむべきは下したよ知しるべし。いまは性せい理りを去さ
 て後のちよりを切きふ者を去さるべき性せい理りは去さるべし。言ごは
 を尚なほびまさを去さるべき名なを聖せい学がくして実じつは吳い端たん
 小せう隔かくらん乎や早く知しべしといふは誠まこと亦また安やすき理り也なり

少と其まゝとるること也

一 次小人として人は乃乃城去るもんばあるべしはといふ
事人より其の目れ付てまゝに然共蓋めて地かん家
やうに子迷よは志れぬ共おまに情く覚ん多くはしう志を
励まし鳥免おし後けて漸お志るべし予ごのふも其ら
於このおおま

一 次よ孝お志る志ぬの辰少てハおし一日もかおてハあ
ぬ共おま其乃を志る人おは亦く急お志るおまこの
に孝と道とハ須臾も離るべしはといふ予ごのふも其ら

此の
お此おあま

一 次よ家事ハ生命故保んずるおあまは務り
おまべしはよとておま志るおま後勢といふ共おて
其業に生るる種の人ハ日比お到てもお急し武
士乃業は習くお終らるべしといふおま是以
後勢なり予ごのふも其ら於此おありさうはそ
よ戦述中へて備え何は答めて給るまはハ
師より事を恥すといふおまを素らあめ時ら
改る益あり我を増まゆ多ん也ゆめく遠くおあ

城か家こと人々其の子く去りて叶ぬことに
あすや大形ら此理を去りて偶然なるあ乃其
聖賢のそむあものやうにえへる者多し。此理を
かふぐら乃小志ぎい家共ら。聖人出るといふた
んともむべうらぶ家共也

一人乃中中小最最してきま天子あま天小代代りて信信
の茶茶生生と養養ひ安樂安樂ありてあゆみも身天地の曲
季運季運切切凡凡互互運運燥燥して物を生生下下物城物城きい
す小均小均一一城城候候郷太夫郷太夫ハ又天子の命命城城受受て百姓

を授授育育し終終小天子小次小次て末末き共也共也あよ上上れ政政を
くんは百姓百姓盜賊盜賊のたよ犯犯され終終て一日も安安んせんや
此此所所是是城城辨辨ぬ共共少少一政一政小非小非何何とと怨怨て穢穢り
家家らよしく物を去去らぶ家家なら天地の上上も早早鬼
洪洪多多地震地震津浪津浪をみ辛辛き異異小付小付てもぶやうふら
なならぶ家家ことのもち然然と候候里里なるべうら今今左
平平の時時小小ををるるららなな小小平平ががぬぬき一畝一畝耕耕まま家家共共ととも
凍凍篠篠の患患わく安安住住して各各やや乃乃をを穢穢論論し樂樂
をを尽尽すすは莫莫志志乃乃所所是是よよののむむ也也近近年年予予の

自称を堯民とすすは神皇を忘るる海に
 んたのこめりり。又天子は其民を恤み給はば海内は天に
 恩を感じて言て民は天也と云ひ給ふこと説苑と
 中書小尺に云り。其民を恤み給はば海内は天に
 恩を蒙り國を失ひ給ふたゞ子に恩のる海に
 父は追ふが如く故は母は知すこと也
 一 聖人は是又天の代りて天下に養生を導き教へ給
 給ふ共なり。今に在ると政令は人の乃の如
 て國家治ることには聖人の恩を信じて行はるる也

賢人は聖人の命を受けて天の命を授け人を行は
 國を行はる共なり。徳候は夫と云ひては政を正
 一 時よ奪はず位成る者らば黨は向ふは成
 教へ人を行はむ又夫らば天子は天の命を授け
 を行はば小なり。天の子ありとて天子と稱し
 なることあり。孝子は夫を継いで人を行はる者
 子ありとて孝子と稱ふることあり。子ら
 男子は称号しり。説苑にも孝の字は解
 のこと。其らまてく孝の通号ありと云はる

へることぬ

一人の擧^げて^{そん}信^んするものは神^{しん}其^{その}神^{しん}は^{いん}不^ふ位^ゐ名^{めい}
号^{ごう}天子^{てん}より出^いさ^でら^るば^は考^{こう}く^し文^{ぶん}社^{しゃ}祭^{さい}祀^い人^{にん}の
制^{せい}は^あ與^あら^ずび^とり^よこ^こな^す山^{さん}川^{せん}乃^の靈^{れい}神^{しん}託^{たく}宣^{せん}あ
りて^{げん}現^{げん}する^{こと}も^まとい^{ども}も^も位^い名^{めい}号^{ごう}文^{ぶん}社^{しゃ}祭^{さい}祀^い人^{にん}
よ^よら^びと^りよ^よこ^これ^し社^{しゃ}神^{しん}体^{たい}を^し幣^{へい}帛^{びやく}八^{はつ}人^{にん}
の制^{せい}化^か帝^{てい}を^ちて^た本^{ほん}よ^よま^まん^んる^る共^{とも}之^{これ}夫^そ神^{しん}の^{しん}誠^{せい}を^い
体^{たい}と^も故^ゆは^は人^{にん}至^{いた}誠^{せい}なる^時ら^天小^{せう}感^{かん}神^{しん}は^{しん}通^{つう}也^{なり}
人^{にん}は^{しん}神^{しん}の^{しん}後^ご人^{にん}体^{たい}を^{しん}神^{しん}は^{しん}血^{けつ}脉^{まく}あり^てま^ま氣^き通^{つう}

はるごと^む宜^いあ^らげ^ば人^{にん}は^{しん}智^ちの^{しん}愛^{あい}明^{めい}なる^ら至^{いた}誠^{せい}神^{しん}
あ^らる^るゆ^ゆな^らり^此身^みら^神乃^の舎^やこと^ハ是^{これ}なり
道^{みち}ら^通也^{なり}天^{てん}地^ちの^中通^{つう}せ^びと^りよ^よこ^これ^し或^{ある}云^い和^わ和^わ
乃^のは^充る^{あり}天^{てん}地^ちの^中通^{つう}せ^びと^りよ^よこ^これ^し其^{その}氣^き通^{つう}
ら^びと^りよ^よこ^これ^しと^ま天^{てん}の^乃四^し時^じ運^{うん}切^きて^須更^げ
を^止と^すと^まし^てを^元亨^{かう}利^り貞^{てい}と^りよ^よ誠^{せい}ら^天の^乃
あ^らる^るゆ^ゆな^らり^此身^みら^神乃^の舎^やこと^ハ是^{これ}なり
を^仁義^ぎ礼^{れい}智^ちと^りよ^よ仁^{にん}ハ^道の^大本^{ほん}を^用ら^ると^も禮^{れい}と^も
道^{みち}の^大体^{たい}其^{その}用^{よう}を^教え^ると^も私^しを^れと^もる^る時^{とき}ら^流

潔白清淨のありたれ生欲は淤泥汚しは濁悪
 とある此理を合点し欲情を抑へく動を依りて
 淤泥流し去或ハ底凝く本原清淨の智ありとなる
 口とむし人と天理人欲を論じ内無不砂とあるを
 今く聖人とし善ふありと砂とまを今く凡人と
 論じたり砂ハ動さいでとも城隅さび去動く時
 大小濁る此去城流し去砂斗ふなり時ハ舜何人ぞ
 家何人ぞし下下聖人といども男女の淫情欲
 食の飢渴而欲生欲乃淤泥あきこと何とく生

動くといども本智のあり城隅さびるのをも欲情を抑
 くもよせざゆ時ハ淤泥底小静ありを切ふて止ご
 ぶと此ハ淤泥流し去と知べし此理を熟思する時ハ
 性善も去り難らば克己復礼もほい下信ハ元亨
 利貞の列は與つるまといども内戸の鎖乃ぬくを
 切て失ふべし信あきと此ハ仁義礼智ハ名これ母
 て切らざるを切ふ次第哉いとも智善若
 西と此仁義よく乃至進礼よくを僅信よく
 里仁以美以居し大業説去くいまさるあつて是は

又倫よけられてたどる

又孝は天地の性あるの故に孝は物に流通せむといふ

ことあり然れ其金神を具へる人むら也故に

礼を立て人畜は初て孝は上下尊卑あ

るゆゑ人畜は男女は交合ら陰陽和合の天理を以

て父子兄弟何ぞ厭むるか此ある時を禽獣

均しき性あるで礼を立て又倫と分りゆゑ人畜

獣は善悪強柔悉く天理小但して私なり人天地の

妙用を具へて孝は孝あり天理を以て顯天

能く私あり此私を自由ありし見れば

家人の暴悪禽獣は害はぬべきものなり

や聖人は是を去り人情の後ふべき所を察し天

の理より則ち礼を制作し上下尊卑正し

を抑へて自由ありし自由ありざるを以て人始

て安んずるを修り聖智の玄妙なるを以て故

小礼ら夫婦は始り孝は及んで孝は兄弟

友は及んで相和なり孝は道乃俸

も多しなり

一 誰う此身哉あせよ味を和あして口後あ不あ徳あ
め衣い服ふくを伎そまへく寒かん暑あつ哉防ふせぐ誰う此身哉あ教あせ
よ家い飲ん食じ必ま清きよく衣い服ふく送き物ぶつ必ま潔きよく居ま所しよ必
灑ま掃さう一い盥くわんひ漱しゆき沐浴ゆよく也既し小こ此身このを志あ教あせ
取あことを志しす此身このを親おやかんと志い達た神かみを親おやら
志あ教あせ志い達た神かみを志あ教あせ志い達た神かみを志あ教あせ
後あハ志いふ一いて祝いの飲い食いをいばんとせい己おのれが結むす履し
と願ねがひた祝いの衣い服ふくといばんとせい己おのれがあ侍しやく遊あそぶあ

あて祝いの苦く勞らうら省あみい況いや祝いの志あ一い志あ教あ
十じの二にといふ人の刺さへ不ふ孝かう哉あ以も報むかふあ禽あ獸じゆ小
を考かうといし禽あ獸じゆ小あ孝かうハなく其い不ふ孝かうハあいし親おや
を喰くんといせいるあ果あれいど反あ哺あの孝かうれ鳥あの志あ
然しかしあ果あ私あみいて西あ形あるあよあのあす鳥あまあこ智ああ
正あて考あふるあらあのあもあお祝あ天あ理あれあ自あ然あ人あの
天あ理あらあ孝あいあなるあへあまあ苦あし鳴あ呼あ不あ孝あの人あ何あ小あと
とあ願あん
一あ孝あ子あはあ一あ善あんあ小あほあとあ決あ小あ推あ及あしてあいあふあ故あ

孝子推及

小其善そのよし淑よく小長ちひさし也なり一ひと悪わるん志こころあること。のじは流なが小
 推おし及よびして改あらたむ故ゆゑは惡わる忽たちまち小消うせす。こが好このむ。亦またのよ
 比ひ事ことをば人ひとよ及よびしてよかよ。志こころめんじじが、いづの
 事こととらんもよあるべし。坐まふてかへ強つよさび小人こじんハ
 亦また流なが小表ひら裏うらして適こま一ひと善よしん志こころあることありてを
 物ものよ推おし及よびして教つとめどほああ。若ごと忽たちまち小消うせす。一ひと惡わるん
 志こころは、中ちゆうあつて物ものごとに推おし及よびしてなほ、亦また小惡こわるん
 愈よむ。其その本もとハ志こころを立たてしむること。小のじ志こころを
 立たてる事こといふん志こころを立たてるハ本もと哉いかん知しる。あ、先まづ天地てんちを

立たる。小人こじん何なんと事ことなきそのハ、亦また志こころなき人ひとなり。流なが
 道みちをゆふまこと。故ゆゑ志こころ中ちゆう身をみを教つとめしむること。故ゆゑは
 其その志こころ教つとめをお。及よびて事こと哉いかん去さり。及よびて事こと親おやより
 始はめ、亦また小及よびして、亦また姉あね兄あに才さい朋友ともよ。及よびて、余あまる
 亦また禽うま獸け羊やぎ木きとも及よび。亦また志こころよけしむるを殺ころす。一ひと
 羊やぎ一ひと木きも亦また益えきよ枯かさびば、是こゝ則すなはち一ひと善よしを流なが小。及よび
 及よびて仁にん恕じゆ乃のみ道みちなり。

一ひと有あり。子こ曰いふ。君きん子し、務む本ほん本ほん立たて、而しか道みち生なる。流なが本ほん一ひと
 のうさ。亦また流なが未ま加かず。倚より。根ね堅かう。さ。亦また流なが

必枯る故小國ハ民を本とし民治たみちを治ちすは時ハ礼
民ハ業を本とし業教わざのしよめざすは凍縁こりづかりを免まぬは
政ハ徳を本とし徳ハ身みを治ちる故本もとを以もつて身み終おひる時
は天下あまた國家こくが治ちむことわすむ昔むかし小身ちひさ修しゆら
むん半な乃すなは家けとりては治ちらべくは況いは天下あまたをわ
身みをたげるハ道みちをたげるハ道みちをたげるハ道みちをたげるハ道みちをたげる
孝材こうざいハ徳とくを本もととし古ふる小ちひさ忠ちゆう臣しんハ孝子こうしのつ小ちひさ出いて
孝こう才ざいなる者ものら加かふべくは忠ちゆう臣しんハ孝子こうしのつ小ちひさ出いて
てたはあらば彼かハ必かならず倭やのよ孝こう才ざいありましては相あ

友ともと和なむる者ものあらば彼かハ必かならず倭やのよ孝こう才ざいありましては相あ
一大いち學がく曰いは物もの有ある本もと末すえ事こと有ある終しゆう始し知し所ところ先まづ後のち則すなはち
近ちか於に道みち矣やまづ一いち元げん年ねんとり本もとをたげる一いちうまるの
号な正ただ月つきらは始はをたげるまづ一いち元げん年ねんとり本もとをたげる一いちうまるの
田の勞らうのよ皇みかど后ごう小ちひさ養やしやう蠶さん乃すなはち功こうありますは終しゆう始し知し所ところ先まづ後のち則すなはち
はらみまたは正ただ月つきらは始はをたげるまづ一いち元げん年ねんとり本もとをたげる一いちうまるの
古ふる小ちひさ曰いは舜しゆん禹う先まづ務む民事みんじ而しか後のち為なす天子てんしとりては予よも
つつくく桀けつ紂ちゆう天子てんし乃すなはち樂がくをたげるては民たみをたげる一いちうまるの
は社稷しゃくをたげる一いちうまるの匹ひつ夫ふの死し戦せん勢せいむ舜禹しゆんうとり喪さう喪さうふ

あこしらふ存故勢つとがなりと存またを忘るわすることあり。或ある同社どうしゃ、
稷しやくといひのけいりことぞ。答曰こたへて土故つちごとみことて社しゃといひ穀こく、
を糸いとて稷しやくと云存故ぞうごと尚なほび民たみを先まきとまりなり。中ちゆう胡こ、
加か茂まう上じやう下げれまハ社しゃ稷しやくの祚しやくありを於お穢し者しやくにるハは、
而しか。扱しやく居いりてハ、糸いとを先まきとまりなり。中ちゆう常じやうのけい嚴げん重じゆう、
ハ具そとハは流りゆうとも乃のを去さること。さははは若じやくら内ハは祚しやくを貪むさかアリ、
立た身みを先まきとまりなり。諂てん使し聚しゆ歛れんして、猶なほ回かい家か小せう及じやくぶこれ、
其その如ごとくら糸いと曲まが俸ほうの樂のりを先まきとまりなり。て民たみ莫な故ごと勢せうさは、
時ときハは信しん又また糸いと社しゃんを正ただへく欲よく情じやうを先まきとまりなり。其その忠ちゆうを後ご

みハハは必かなたか知ちとも礼れいもハ孟子まうじ曰い上じやう有あ好こう者しやく下げ必かな有あ、
甚きん焉やん亦また何なに惟ただ乎や。糸いとんりのけい方かた寸すん小せうして、海うみ、
の大おほなるこ糸いと愛あいひ治礼れい猶なほ福ふくたしすらハは分わかること、
哉や以もハは正ただは本末まつ先せん後ごを去さること。むんハは回かい家か、
至いたることへくはは、
一いち親ちんを先まきとまりなりことハは、糸いと敬けい乃のはは母ぼく委く中、
述しよ信しん糸いと居いりハ、糸いと愛あいひま生せいのけい意い也やのけい中ちゆう小せう居いる、
由ゆへん孩ちやうとも勢せうがくくハハは糸いととも及じやくさびんハハは何なにること、
次つぎ支しぬの先せん後ごを去さることハは、糸いとそれ婦ふ也や正ただることハは

父母小事其内故助言志めん為ふは孝を
あると以先とまへ一婦も又舅姑よするは故
先とまへばまを先とまへことハ其中小義を
つ猶るに何房なるまハ己が淫欲故先と一朝夕
戯しをせむ由一毒もかきし以棄て来く男
姑を後め一姑姑誡合の中とふる姑姑より非
乃小あはれ多分姑が孝故志ぬく起す未
ら姑の徳に強く姑誡繩子のうに名義出はせ
と人の上よ入る時ハ笑止子系成趣一人の志を

入ることも又さのごとく一自ん小耻するや兄ハ先
とふ名の争は濟ぬ共ふはは弟此先と一敬
ふさ乃波定ことども兄も又弟故先と申す
是を一譲るの乃ち然る時ハ弟ハ兄を先
ら一敬ひ一併れ如く成へ一弟順あうさ乳ら
兄の志一譲らざればあはれも兄の志一譲ら
ざれば弟の先と一敬するにのづからとまり
兄ふてそ弟あくも乃とつて一弟未従兄弟
と成く睦一うさ弟ハ兄弟此先とせさゆ

起つて是を軍の始として親親縁親にまじは
かゝる一家の内一人いふは成るる一
成るる一はば軍し和りて一張公執云の
一の一字みく九代同居ヤ一こと成るる一
朋友乃交ら於以人を先ぬ一
こと委也丁寧なり久一人と先小を家八仁あり
成るる後小なるハ礼讓なるかのごとく先後する
これら身脩る成結して一人和して成るる一
家一

一君仁讓ある時宰相百友必仁讓ふるんハ
へうの宰相百友仁讓ふるこれら令下吏と
仁讓なりへ一令下吏仁讓ふるハ天下皆仁
讓なりへ一志文王の國なる何を以て治るる
む其の仁讓いん曰民を憐し其のんら謙して
民向小の天子これさ成以るふり治るる
仁讓なりへ一志成るる民のん聚るして其れ成る
怒天なるは地天泰の卦れ通和するあり故に仁讓
治國の樞要脩身乃中和なり一

一 支ひてんと欲ることに必中末先後統始を
考へ孝不孝世道を乃を慮り而して後小川
ふ時ハ悔寡くも寡りゆべし夫乃を志ることハ
同小ことを好む小ゆり各方書哉読こと丁寧こ
いども同小ことよ各なりいふ人母乃を乃を
善くん古の学何そや身と謙己を虚志し
して同小こと哉好む乃と謙る若ハ必益一虚
志し若る若ハ必益こと天乃の常なり
此席小て或人の曰今菊小政となさしめはよく

國を治めん故答云余いま身脩らばいそふ
を治めんや又同然らばい好る人よく國を治
身脩る人よく治んよく身と脩めハ成童とい
よく國を治ん父子推う楚哉治一とや若や二十
又の若人二十又人乃後士哉用るの身脩るにあ
らばんハ年十又ありてよく國を治めんや若身
を脩め若んハ伊尹呂望といふ若十口此家とし治
め若今美質端正の若い人小予側よ侍る
若哉勅め若を若る若れ身を脩め一先ハ國

の信ること何ぞ難くん政小興ることハ何んじ
此れ同打竹の柄杖堅むるは力何る小あは
そ何する所小堪るこの友に平ぐ言折言治玉の
申小及ぶ杖惟むて試らる同かまの面小乃を
説老ハ思てごゆるる是れ言もあへて況や治玉脩
身は学問の枢要經書乃大義なる或ハ政事小上
里脩身小下る理以一つ里家ハ徳老なり信貧と其
むじて一生と尽さハ身小おて是れ何そ政事と
里ゆん山ありハ家屋む交死して出根小すは

骨を又毒かりん歎

説去説来くみいのう省人じハ跬歩弱し
て山岳の険一地をうに遠し然れども作いて
止まれは一丈れ樹陰よ息づくのこ切事止む
むバふ丈乃巔足下に踏ぎんや家る今年は
去るれ如くむらごゆると杖おけふ各勉め勵
ます一給へ梅原氏峯尾氏の清くは任せぬ愚
なる言の讀を記し止め早ぬ
甲寅四月十二日上列小赴く武蔵野下て

心とまじり事や

心後世のあまのり

上之一終

民家童蒙解卷上之二

四月十八日松井田上列小なる又八王子の例ふと

或問考

一 何人考哉向小ころふ。經曰子日夫孝之
 之本也教之果由生と徳らほりみらと
 切ふてはるの名と地運切して止ごぬの理也
 土地の乃を元亨利貞と云人乃乃を仁義礼
 智と云元ハ土地の性也全體仁ハ人乃性也全
 体ハ元を元と云るら仁なり天万物と生ト人

孝悌を孝と愛ハ親を親人とするなり大なる
ハふし。その愛を孝と云ふ。及して事ふまはすはた
長よ事ふまはすは順之夫婦よ及はば和あり。
朋友よ及ばば信あり。故に孝ハ徳の本あり。友
の由てあるを曰ふ。仁の大なる天地乃万物の
及ひ孝ハ大なる天下れ万物よ及ひ。故に孝ハ
予言のよく及ばば事ふまはすは。然れ人云ハ
孝と云ふは。乃此の如く孝といふ。孝ハよく知
せんハるべし。此の如く知といふもよく知ふ事ハ

難し。孝よく知ふ。孝あるは天下とも治はる。一
經曰得萬國之歡心以事其先王と云ふ。天
子の孝あるは方圓に歡ん。故に仁を以て孝
を以て。此は仁孝ニつる。天地は充滿を
以て。孝と云ふ。此れを道といふ。乃を切ふて。得る
孝と云ふ。此れと云ふ。此れを孝と云ふ。孝と云ふ
孝といふ。孝の文と云ふ。孝なり
起孝心

孝のなまさん

孝のなまさん也。思へば孝人起す。人ハ先其本

を知^し通^すし其^の本^をと^りし^は夫人^ハ天地人^ノ三才^ニて
 天地^ハ並^んで^も多^ク人^ハ夫^レ人^ニを以^て
 と^り天^ハ倅^トし人^ハ以^て倅^トし故^ニ夫^レに代^りて^も
 天地^ハ並^んで^も多^ク人^ハ夫^レ人^ニを以^て
 と^り天^ハ倅^トし人^ハ以^て倅^トし故^ニ夫^レに代^りて^も
 既^ニ小^ニ多^キこと^ハ決^定せ^り又^ニ其^の身^ノ重^キこと^ハ哉
 夫^レ一^ニ今^ノ人^ニて^も今^ノ日^ハ女^ヲを^レ主^ト候^トせん^ハ日^ハ女^ノ
 命^ハ哉^アと^も今^ノ日^ハ女^ヲを^レ主^ト候^トせん^ハ日^ハ女^ノ
 と^あこ^よと^いふ^ハ應^トし^てば^も哉^アと^んの
 身^ノ位^ハは^も欲^トし^がも^も身^ヲふ^らん^で主^ト候^ノ位^ハ

之^レ方^ノ海^も何^レは^ん此^レを^レ多^ク身^ヲ
 何^レ方^ノより^も出^るも^も木^ノ根^ハ此^レに^も出^る
 小^も何^レの^レ余^ノ父母^ハ乃^チ場^{アリ}人^ノ常^ニ音^信の^報
 物^ヲ得^てさ^へ母^トと^して^も報^{する}小^の何^レも^も海^へ
 や^かは^じ重^キ多^ク身^ヲ哉^賜父^母を^レ報^す
 母^ヲ報^す多^ク苦^シあ^らひ^や其^レ上^ニ胎^内小^の一^時
 長^ル今^ノ日^ニ主^トと^して^も育^成之^の大^母言^は小^の
 尽^す一^時此^の母^の言^ハ大^{なる}事^トと^も哉^とん^と懐^まえ^る
 孝^ん起^らん^や其^レ孝^ん起^る時^ヲを^レ通^さし

志を立てていふべし。が、一を万を延せば、又その
懦弱小なるを、終つて仕回ふべし。これ、徳の
孝と云字を大字に書く不ひ、又その字に掛
忘る。時、是故、又て、出、力、成、勵、して、勤
習、て、孝、れ、乃、が、一、人、の、居、る、小、哥
家、妓、後、た、は、法、重、く、此、亭、ま、子、小、は、你、く、親、小
ら、儀、き、男、し、心、し、と、ご、ん、や、孝、の、字、一、人、より
小、一、地、お、ろ、愈、う、び、ら、い、さ、も、は、目、よ、か、く、ふ
こと、寡、き、こと、也

孝心厚薄

性ハ善ありといども、氣質、其、稟、交、母、一、か、
さ、ゆ、よ、り、孝、心、小、と、厚、薄、あ、る、其、厚、き、者、困
ま、む、して、勢、じ、ま、ふ、る、べ、し、其、薄、き、者、ハ、親、乃
言、母、を、你、く、感、が、の、人、面、獸、ん、め、ん、こと、と、強
く、耻、羞、を、お、して、勢、ふ、て、習、ひ、て、後、ハ、其
厚、き、者、小、も、劣、る、こと、の、じ、こ、法、を、習、ひ、て、性、と
か、く、し、つ、事、の、事、功、を、積、て、お、く、べ、し、こ、し、は、
枚、衆、書、曰、泰、山、之、雷、穿、石、殫、極、之、綆、断、韆、

水非石之鑽索非木之鋸漸靡使之然也
此功を積むことをいふもこの身をかき整めて忘
れまじく此の孝れ字哉毎日見るといふは整ぬ
族ハ彼人面獸心又ハ恥ぢるべきの素性かよハ聖人
よ各ふといふともなほことなり人々隣に居るへ

晨起

禮記内則曰子事父母雞初鳴咸盥漱櫛
縱筓下文畧中華の人ハ雞初て鳴と起す
身と改め祝の機嫌を窺ふ其法嚴重小志由マ

かつあるこの如くせされば不孝と唱ふ家國の凡俗
小てらそとなくこそ起さうめせ使てはぬ
六比起出祝の起給ふを待て機嫌を窺ふへ
此毎日人の先とせべき整ふる身の本居れ奉ふ
れどながら此小事なるゆへハ孝じしと死と
いふをなをひくんとしつゝをいづりみして偽ふる也
せざる重の不孝者こも此せくひふる孝なり
朝寐ハ去る道ハひひう放捨ハ去る事ハ生
して憂病ハ冷ハ孤ひるは好父ハ同ハマめじ

夫は木よ空まで魚を求め、淵は深じ、獸を捕ふ
目し、いそぐ、乃て人、種書は、任せて人を責む一人
をば、是らふる、其のいふまゝ、一人、海は、讎敵の如く
ふん、しんも、し、わ、ゆ、人を責むること、いふこと、孫
ごし、今、向、つ、よ、より、虫を以て、より、通、り、成、る、中、に
予、が、朝、起、は、平、止、の、氣、を、善、く、ん、が、為、あり、人、乃、朝
寐、し、く、祝、み、へ、朝、寐、朝、起、孝、不、孝、ハ、自、ほ、ふ、の、家
下、に、於、て、孝、經、小、学、を、熟、読、し、て、予、が、辨、小、儀、ら、ざる
こと、淺、索、し、終、へ、翌、朝、より、教、書、朝、起、也

勿令親心憂

一 俸養給仕して、親の体、戔、安、く、し、む、る、子、た
る、其、の、職、分、を、身、と、立、及、成、り、ひ、家、と、親、へ、親
の、心、を、喜、ぶ、し、む、る、は、人、ら、取、の、孝、理、を、親、の
体、と、喜、ぶ、し、む、る、は、人、ら、其、心、と、喜、ぶ、し、む、る、
は、ろ、ろ、を、ま、て、ハ、孝、と、去、る、此、理、と、去、る、は、家
者、ら、一、旦、の、怒、小、此、身、と、忘、し、禍、を、父、母、よ、及
或、ハ、妻、子、に、お、し、を、執、の、念、亦、く、愛、み、況、ハ、焦
悴、と、疲、し、け、親、の、心、を、憂、め、或、ハ、父、小、耽、り

藝小荒み葉を急ぎ家破つ或は凶大食
して病を生じ或ハ捕魚を好し又ハ闘争を
懐まじ身と危うし歌の効勞を顧みざる是ホ
の箇條哉怯まざんば大不孝とまへ一孝の切
方敢ありやいづれも樞要ら歌の心哉よく知る
老教と以從ひ森くむむるに去くハ家日月流
るし如し父母の妻かひひ乃改るを待せんば
子悵色を失ひ血小泣枯塚松柏の凡乃を誰
答んや牌前金玉れ具哉おさんよりハ生る葉藿の

及ふひ母父母の森しき私父哉アん小ハ志の
古人一日之養不換三公とこそ凡へは各孝
經小学哉暗しらすして一期の孝切闕ること何
らば書ハちのぼろ書我ハちのつら我こそ後
の書生何れ益うあん

性善之辨

一 予むしちもへらく性ハ善かまといえど殷小三仁
ありて紂が後らさほこといへん善性ハ悪かまといえ
は唐小四凶のりて堯の頃うさ家こといへん

性善なる者ハ自善ありて成る時ハ
時ハ亦善あり。性悪なる者ハ自悪ありて成る時
亦善あり。性善者悪混雜なる者ハ善
を以てして善なり。性善者悪混雜なる者ハ善
小後せて善ともあり。悪小うはせし悪ともなり。亦
比竟頃ハ糾紛後らざる事と宜ありと云。孟子去
孟子ハ亜聖あり。二代の教明何を得ん。惟ふり
学の弊らざる事あり。一也。疑ひを抱き。二也。支を凝
こと。數年を積。老の坂。息はく比。初て性善の
一言と悟。聖は信。愚は疑。成は述。信。一也。天ハ陽あり。

て清王茶々として象形。地ハ陰あり。清
道王。茶々として象形。地ハ陰あり。清
地。の形あるら。質あり。人ハ天。性。を稟。地。の質
よ。生。家。志。性。ハ善。なり。理。由。あり。地。の質。又
氣。の。り。其。土。地。肥。瘠。山。谷。の。遠。近。あり。志。と
氣。質。の。所。一。か。ら。さ。は。亦。多。ん。ふ。王。堯。舜。ハ。性。の
清。厚。一。氣。質。の。清。小。を。志。と。一。の。こと。ハ。志。の。氣。
か。さ。は。亦。多。ん。ふ。り。桀。紂。ハ。氣。質。の。濁。王。厚。一。性。
の。清。を。濁。ん。こと。一。の。こと。ハ。志。の。氣。の。清。を。濁。ん。事。也。名

ひかり天地一色めあして人徳は清濁お雑る。
然れ濁は清の多きに敵を依ることこのことさ依ふ
より日月清明小して天地悠久あり亦は天と
聖人と徳を同じひる理あり。凡人は清濁混
雜して清の濁小克若なり。濁の清小克若る
清濁おはする若かり。これみかたぬよ従ひて
福さばうつも福さ中人なる又友を交すく
悪小深ん悪人ともなるべし忘るべし慎むべし
中庸曰天命之謂性、性、道、聖、愚、九、小、天、に、稟

性、性、の、若、く、さ、ふ、多、り、子、思、ハ、天、命、と、云、孟、子
ら、性、善、乃、云、モ、理、一、也、率、性、之、謂、道、之、終、聖、人
性、の、由、り、乃、多、り、脩、道、之、謂、教、之、終、凡、人
友、を、交、て、後、せ、う、は、る、の、理、あり、孔、子、れ、上、智、也
下、愚、は、神、比、の、終、ふ、ら、堯、舜、桀、紂、を、除
いて、其、外、は、友、よ、福、ぶ、し、と、な、ら、ま、り、に、知、り、ぬ、蕙
榮、ら、土、地、の、美、質、小、ま、り、荆、棘、ハ、土、地、の、醜、質
よ、生、ひ、る、こ、と、哉、唯、性、ハ、な、ま、り、以、の、友、よ、後、し、植
之、其、蕙、榮、香、を、失、く、ハ、荆、棘、刺、芒、哉、變、せ、ば、人

吾人の性は楽ることにて素く豈移らざる
ひやく此座の人蓋然う荆棘の如く性の善
人ありく福はたう福うごんや

戒諫

一 予中年の比より屢吳見を好み人を諫めに
漸く六七輩仕裸せて余はあはれのほん感涙ハ
事ふと其こと伐逐するは少し年経ては
あさり後悔せし族も多しこれぞ為事の人
き乃理承よる失を考るとこそ及んばさうあ

たり是非善悪は合はるおなれたるふゆめ
て乃とバひくぬあり適ん行を費く程の金言
はいと感興の情と愛し今迄の非と愧あやまら
伐悔今日より悪ハ止めん吾をさん免して角
して或ハ一月二月乃至半年ごしりがるは誠
素子ともふるべき凡情人も亦何某こと何某
一の吳見めて打く返したる善人とかなりたりや
譽んやと伐家も嬉しといはせまうん何の強裸の
内くう歌が勢半しておき重なるつごんふ長ア二

後自智の詰拵めて塙浦たがうらにある家俵が又俵一と
いふ深付て居る事なれど他どの透向く彼欲
情めつ教を出して甘蔑しりう悔き又欲を又
付るし堪へ兼く一口ぐり一交ぐりハ苦志じ
や、氣成ゆる事こそ最始をて援穴一筋のさし
ゑふ此居築一子丈の塔たしまら高し一條の
大いしちまに波岩を侵し人亦村落をち一統
せぬく終よ家と破り身成亡せふるまゝも生
雙のよ化若は此波に致るま自りしては成改

めが此残業を保らくること何れ大形ら亦財の
しをけくかして後友の受るが多し一は成改め
たど世恨くくは目のめと人乃矣又ふ付くは成
ふかし平を初ハ人乃為よ謀て忠ありまやせ
いふる曹子の者を目あめし一は練成好みしりか
近年ハ身終らびして人を活る若はこのしり
ふ語小ついで自分の務小保なく練の志とはふ
致てい予も致ること此練しり一は成改はるれバ
いふ程乃とゆへを自保して己ふ克保ざる内を

中く人小あし、統せし、一、敵小て、以、兵法、去、矢、人、あ
 一、き、と、極、め、ら、る、ふ、と、そ、ね、し、生、質、の、よ、た、人、を
 去、ら、び、て、居、ら、る、に、ゆ、と、重、言、を、ゆ、て、る、改、政、
 篤、實、の、人、と、な、る、も、何、里、又、悪、小、倦、米、吳、見、之、
 一、の、坪、持、て、と、系、る、と、功、を、遂、る、こ、と、あ、つ、と、去、
 面、よ、九、十、八、持、て、剛、ふ、里、り、家、ホ、首、折、系、計、
 克、已、
 一、己、小、克、こ、し、は、勇、小、何、く、と、統、じ、あ、こ、と、び、あ、り、
 一、あ、つ、何、り、極、虎、と、擊、り、よ、一、蛟、龍、を、斬、却、せ、る、は、

匹、夫、の、勇、あり、矛、伐、提、も、同、と、怒、り、三、軍、小
 走、入、く、最、後、左、右、人、を、ま、さ、か、如、く、死、と、見、る、こ、と
 本、亦、復、る、が、め、く、ね、る、兵、士、乃、勇、あり、大、山、あ
 一、よ、窮、る、と、升、又、変、せ、以、糜、糜、左、小、起、と、と、
 目、矚、ぐ、以、大、軍、と、一、口、よ、吞、尽、と、は、将、乃、勇、あり、
 人、侵、し、侮、し、た、怒、り、び、又、欲、あ、小、誘、へ、と、こ、
 一、んと、勃、と、び、王、復、ふ、も、志、と、屈、せ、び、盛、衰、節、と
 改、め、以、唯、聖、賢、よ、及、び、と、協、こ、と、改、恥、る、一、志、子
 の、勇、なり、猛、虎、ハ、殺、り、一、と、へ、一、欲、情、と、は、殺、り、

べくび三軍ハ皆得^レ欲^ク情^ク小^ク克^ク得^ルべ^ク
以^テ太^ク山^ク崩^ルを^レ動^スせ^ルべ^クも^レ欲^ク情^ク小^ク
動^スべ^クと^レ他^カ人^ノと^レ用^スさ^ル所^ノの^レ欲^ク情^ク人^ノ
よ^クあ^リけ^レ家^ノよ^クあ^リけ^レ家^ノ小^クあ^リけ^レ我^ノと^レ協^ス何^ノ故^カ
み^テ去^リ難^クし^テ人^ノ唯^ニん^ニ伐^リ用^スと^レ協^ス有^リ唯^ニ子^ノ
の^レ勇^クと^ク克^ク得^ルことと^レふ^レ以^テ顔^淵曰^ク舜^何人^也
予^何人^也有^レ爲^者亦^若是^也こ^レは^子の^レ勇^ク
上^ノふ^レよ^クその^レかり^子以^テ告^之過^則喜^ハ其^レ次^之
人^ニて^レ乃^をひ^とと^レ協^ス人^ノ面^獸心^多る^事也^伐

恥^ルる^レ又^モ次^ニあ^リて^レ人^ノの^レ用^スふ^レ勇^クあり^此
勇^ク撓^ビこと^をか^くは^レ漸^ク欲^ク情^ク小^ク克^ク得^ルべ^ク也^此
勇^クなる^レん^が乃^とと^レ協^スと^レふ^レと^レは^レ克^クこと^は何^レ
と^レぶ^レん^とな^れば^レ世^上欲^ク情^クの^レ味^方ハ^レ世^上は^レ蔓^也
道^ノの^レ味^方ハ^レ僅^十人^よる^レ也^{然^レレ^バ勇^猛鉄^甲}
の^レ愛^心乃^小進^ムこと^と急^ナる^時ハ^レ猛^虎の^レ怒^也
入^ルる^レ如^ク欲^ク情^ク道^去る^レ氣^を失^フべ^ク也^{耻^と有^ルに}
深^キハ^レ勇^猛心^を失^フ中^庸曰^ク知^耻道^手勇^とハ^レ
此^謂あり^{古^{より}今^も小^{なる}と^レの^レ美^子ハ^レ悉^く已}

よ克人なり古より今よぶるとの小人ハ比己小
従ふの人あり。妻子とありんも小人とありんも。
其好じやよのり人こよく擇ひ給へ

耻有無

楠正成の云我小兒を試るよ耻の若は成人の
後必勇氣あり耻の厚薄に由りて勇氣も又
厚薄のり様一尺に百人の中ゆく二三人を
遠くかか又換しころあまはよひ合せること
也予あき時或和書して尺留里以來ため

尺るに大概遠ふ事那私小る等もるよ耻小内
外の二種もかよ向けて耻る若は名姓好じんより
人よ悪くいころ改いやがり偽り飾りてよく
道ごり人の尺ざる示めてち放埒狼の措かすそ
甚一死ものら侮奸かす楠公の尺遠つれ
は此恥あるべし又内小向く耻るハ義かす独り
怯ま象のりて暗夜といつ中自欺くびごり百人
よ七八人程の希若めて学ぶ時ハ若子とふる学ん
された不道なることハなさいか小向く耻る若ハ

常小よ地あはるるし時ハ吾人代あることと虚
と推く実よなしの術めて元好む下はる小恥
友ふどひこや其虚と咎るるときハ漸く内小恥て
誠の道哉務る共あつ又何一此俗よ誘ふこと
悪人とちる事そ急あり又剛強小志と奪と
西哉か共何り此共ハあつて吾人よ奪よ
さあをゆ入るや殊の折る如く道哉改め篤
實の志子と行ふあ里此共ハ剛強の中小必
付養あ共あつ勇ある小恥ふて切を改ること

矢の如し又凡小耻なき共何るこことと鑑みこ
未小しからぬける共あつめての取捨小は後病
みく人を殺む程のことは多し此中あて家ら
この位乃共そ恥るる者みあべ一人ハ
嘘いけ家とハ争ふとぬそのあつこれ虚を押
て実とあその始あつ扱せ上哉一通りすいと押
く入るに言れ合ぬ共約を變せ共切を遂さ
者ハ耻なく遥机ふる共は耻なく懦弱あて癩
の事ぬ共ハ恥なく嘘をばく共は恥なく嘘小

卷二之五
十一

不^レあつ^レ王^レ端^レ小^レ虚^レら^レ誉^レ邪^レ執^レ补^レき^レ虚^レハ^レ嘲^レる^レ侮^レ
 かる^レう^レそ^レら^レ巧^レむ^レ智^レを^レ術^レふ^レう^レそ^レら^レ飾^レる^レ奥^レの^レ
 嘘^レの^レ王^レ痴^レの^レ嘘^レあ^レつ^レま^レい^レは^レど^レも^レ心^レ正^レし^レう^レう^レされ^レ
 ぐ^レぢ^レら^レど^レか^レく^レう^レそ^レれ^レぬ^レ若^レと^レ言^レの^レ合^レぬ^レ若^レと^レ
 恥^レを^レ去^レり^レう^レう^レ恥^レを^レ去^レる^レぬ^レ若^レは^レ去^レる^レ恥^レし^レの^レり^レ
 ところの^レま^レよ^レ若^レは^レそれ^レ禽^レ獸^レ也^レ

大耻小耻

一 天下小一人の罪人お濟^レく禹王耻^レる^レ天下よ
 一人衡^レ切^レむ^レるとは武王耻^レる^レ天下此^レ民匹^レま

匹^レ婦^レを^レ堯^レ舜^レの^レは^レを^レ去^レり^レと^レ協^レ若^レの^レは^レ已^レ推^レ
 て^レ海^レ中^レ小^レい^レる^レこの^レ如^レし^レと^レハ^レ伊^レ尹^レの^レ耻^レを^レ去^レり^レ然^レ亦^レ
 邦^レ内^レ小^レ罪^レ人^レの^レは^レ後^レて^レ刑^レ一^レ割^レ強^レ羞^レ惡^レの^レん^レ
 ぬ^レよ^レは^レ聖^レ賢^レ乃^レ飛^レ人^レを^レ去^レり^レま^レよ^レく^レ此^レ耻^レを^レ去^レり^レ
 及^レして^レ往^レ伐^レ脩^レる^レ志^レの^レは^レ四^レ家^レ飛^レ人^レを^レ去^レり^レ
 て^レ堯^レ日^レ舜^レ天^レ伐^レ教^レ子^レ宗^レの^レ後^レよ^レ又^レく^レ志^レを^レ忘^レ
 し^レ民^レを^レ治^レる^レハ^レ大^レ臣^レの^レ職^レなり^レ然^レよ^レ上^レハ^レ志^レ伐^レ正^レ
 志^レを^レ去^レり^レ事^レあ^レる^レの^レ下^レハ^レ百^レ姓^レを^レ治^レる^レこと^レ如^レく^レ
 罪^レの^レは^レ從^レく^レ刑^レ一^レ推^レ威^レ伐^レ繼^レ横^レ一^レ聚^レ斂^レを

んぐ。尸位小居く耻を去る。ご係ら。侍尹の責
と笑う。是れら若る。古の妾子ら。時位小居さ
ふ。ことと。も貪婪ある。ことと。も耻と。せ。し。身は。脩
ら。ご係を。耻と。し。功の大。あ。ら。ご係を。耻と。し。礼よ
あ。ごされ。は。子。戸。を。も。却。し。義。よ。あ。ご。ご。決。り
万。徳。を。も。受。む。爰。仲。因。に。就。こと。伐。耻。と。せ。し
天下。残。正。さ。は。る。こと。を。耻と。し。韓。信。勝。を。ら。ご
こと。を。耻と。せ。し。万人。乃。肩。小。立。さ。る。才。伐。耻。と。し。小
丈夫の。疎。を。あ。り。て。打。果。し。ぬ。ま。は。其。ん。遠。

其。器。ぬ。く。して。敬。小。下。王。務。を。ら。ご。係。ら。耻。ま。ま
の。位。一。ふ。ま。後。痛。共。け。抜。句。に。回。く。堪。忍。志。小。く。地。場。を
道。と。納。を。さ。せ。り。て。堪。へ。り。と。事。物。事。堪。忍。せ。ぬ
男。の。急。於。場。み。く。依。は。堪。忍。あ。ん。や。笑。い。毎。に。也
去。頑。忍。の。交。事。ぬ。き。ご。め。小。は。是。て。通。る。り。恥。重。く
故。小。平。生。言。と。謹。し。身。と。謙。り。辱。し。め。伐。文。ぬ。や
う。に。ん。ぐ。べ。一。是。も。亦。已。よ。克。の。乃。也
都鄙

一 敏。系。屯。の。地。ハ。各。廉。れ。物。欲。多。き。に。敬。く。れ。乃。れ。ん

屈伏して恥は交交まじりまじりに起居きよ法はうを言ことふ
 咎とがめふとは争まじりくぬし、能よく取とりて
 く約やくを更あらたむることとは何なんれも
 いぬ者ものも稀まれなる大おほくは虚まよ病やまなり
 一ひと待まち義ぎなる者ものとは取とりて其その人ひと越こえ
 ぶ共ともを以もつて料しし其名そのなを以もつて責とがめ
 父子ふし兄弟けい才さい叔しやく姪めいの目めも厭いとえ
 拍ひやく子し云いふは氣きれ茶ちやるる男おとこめは
 おしと耻ちぢとは志しぬ教きやくめり又またおし天あま窓まどを

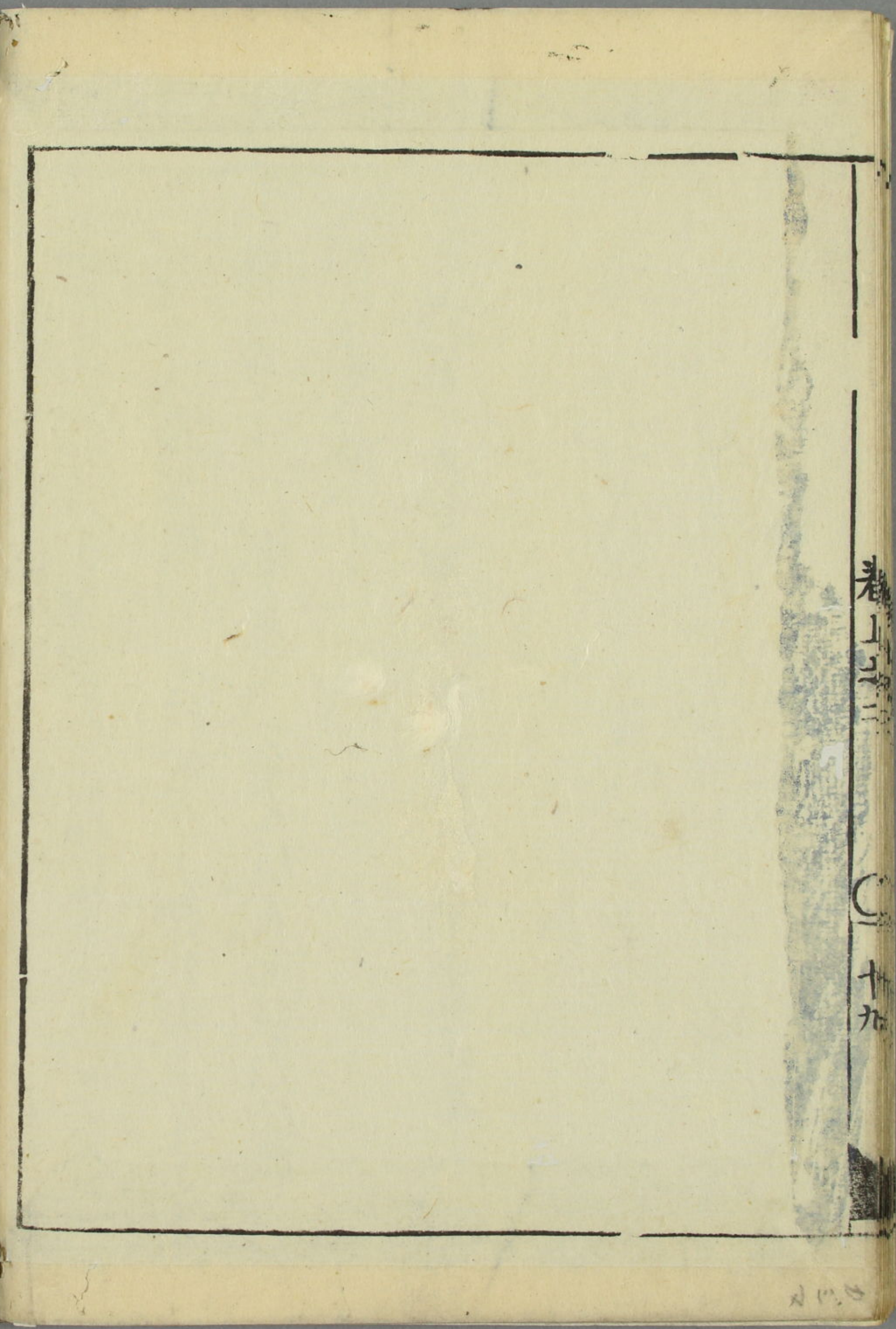
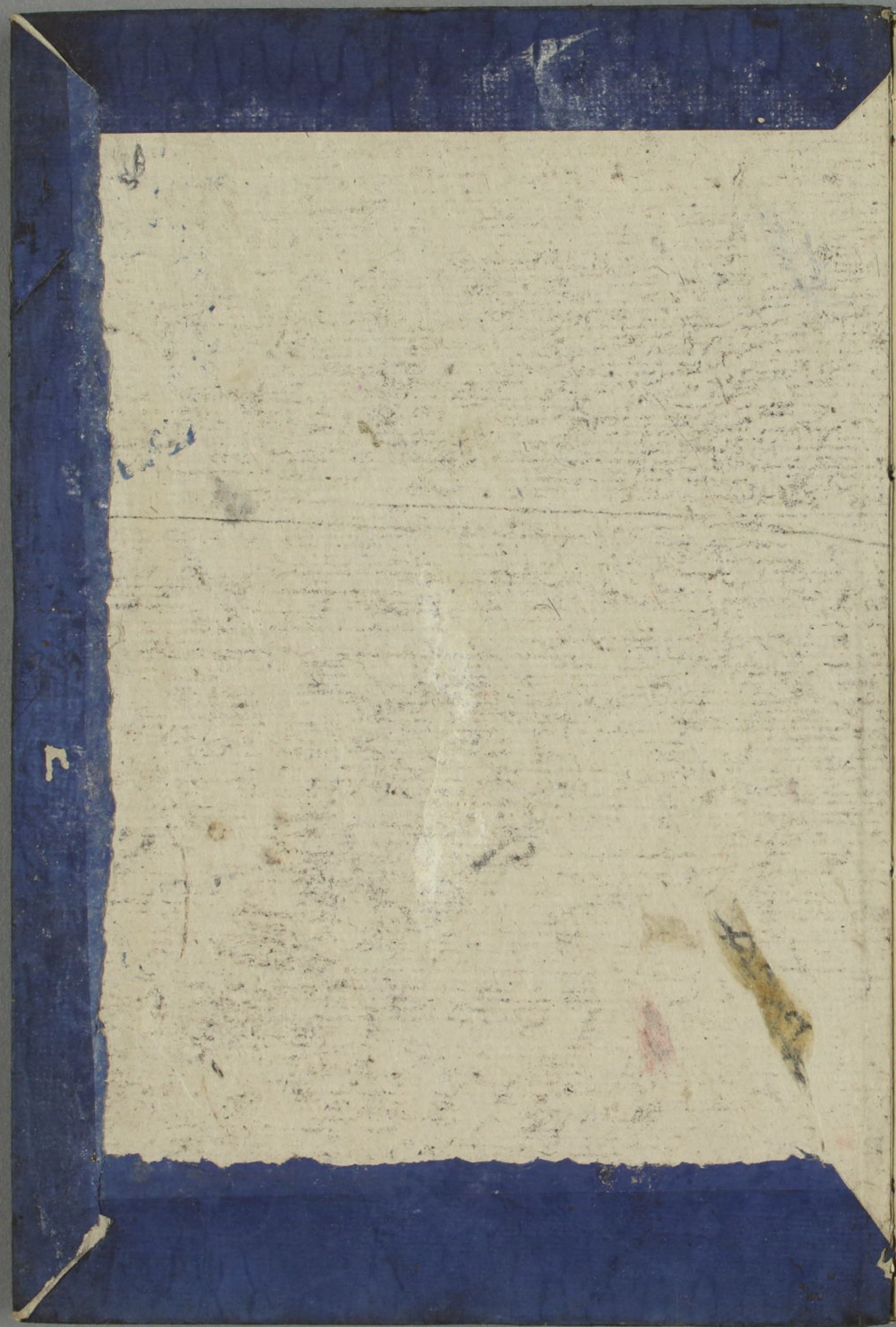
して口くちをせられてを後あとをまぬ故ゆゑは
 志しを言ことふと譽うめ吹ふ耻ちぢす実まことは志しを言ことふ
 欲よくよきことして耻ちぢ成なりてぬ成なりては
 ことおしくおし交まじりて其その人ひと越こえ
 耻ちぢめも遠とほく都みやこハ実まことめは耻ちぢを大おほ事ことに
 々されども交まじりて其その人ひと越こえ
 んの教しんハ都みやこよりんの度ひらき度ど量りやう方はう事ことに
 を車くるま凡たゞ流りやうおし実まこと体たい信しん義ぎは田でん舎しゃより
 恥ちぢ増まるはなみ及およぶぬのこまれば耻ちぢ成なり

ある一妻を坊くんの比去をふり一言妻へハ
 許さぬ一事妻へハ堪忍せぬは平生母ておふー打
 果一老後さゆやうなる耻とふよ誤りて父母の
 遺体破ることとを言はしむん次父母の心を憂
 へしむるも何れかぬは身を志すぬある耻哉知
 小似て恥を志すぬ也初母も何れか田舎ふもよ先
 孝と尽くし妻姉兄弟朋友和順し仁慈人を養ひ
 礼讓人を教へ信義約を變せし言必信と身先
 謙下肉よ者みく疾くかろんは何れか都

の凡俗小かりん富貴貧乏はさへはまらる分
 何れか身をけふことにおおてら執儀といふとも
 譲る處うけ勢めて止むんは人面獸心の耻と
 はまぬの候へ

六月十日之辨依俣田氏然亭書記早

上之二 終



巻上
十九

